

第 1531 回 (2 月 4 日)

農山村における環境教育価値の経済評価

——コンティンジェント評価法をもちいて——

矢 部 光 保

1. 研究の背景とねらい

農山村のもつ環境教育価値について、山村留学参加者を中心に調査研究がなされている。しかしながら、一般の父母が、山村留学や環境教育の場である農山村の自然環境保全について、どのように考え評価しているのかについては、ほとんど研究がなされていない。そこで、本研究は、山村留学参加父母はもちろん一般の父母に対しても農山村の環境保全についての考え方を調査し、わが国で初めてコンティンジェント評価法を適用して、農山村の環境教育価値を経済的に評価した。

2. 研究内容

(財)「育てる会」による山村留学の父母全員と、これと比較するために、比較的関心の高い層として夏休みに行われる農山村自然体験活動に私費(5~6万円)で参加した子供の父母(1990年参加)、及び一般的な都会の層として東京都北区の小中学生の父母に対し、アンケート調査を行なった。そして、コンティンジェント評価法を適用し、子供を一年間山村留学させるために支払ってもよい最大参加費用を調査することで、農山村の環境教育価値に関する経済的評価の一次接近を試みた。

3. 研究成果の概要

(1) 自然環境保全や農山村景観保全についての関心の比較

自然環境保全については、山村留學生の父母の 60.1% が「非常にある」といい、ついで自然体験活動に参加させた父母の 38.5%、北区の父母の 31.4% とつづく。このような傾向は農山村景観保全についても同様にあてはまり、山村留學生の父母は、子供を山村留

学させる程だから、最も関心が高く、ついで自然体験活動に参加させた父母、北区の父母の順になっている。このことから、自然環境保全や農山村景観保全についての関心の高さと、環境教育への実践とが一致していることがわかる。

(2) 山村留学の希望地の比較

山村留学の実施希望地として、「森林の他に水田や畑があるところ」を、山村留學生の父母の 92.5% が、自然体験活動に参加させた父母の 90.4% が、北区の父母の 83.2% が希望している。つまり、父母は自然さえあれば子供の環境教育に十分であると考えているのではなく、自然のなかで、自然と人との営みを経験することこそが重要であると考えていることがわかる。

(3) 農山村の環境教育価値の経済的評価

子供一人が1年間山村留学するために支払ってもよい最大参加費用は、山村留學生の父母が平均 111.7 万円、自然体験活動に参加させた父母が 77.8 万円、北区の父母が 62.1 万円であった。この金額は、父母が間接的に評価する農山村の環境教育価値を示しており、調査集団の年平均所得の、各々 10.6%、8.1%、7.3% を占めている。

以上から、農業生産的には限界地であるような農山村こそが、環境教育的価値が極めて高く、かつそのような地域で、農業生産の営みの中に自然環境や農山村景観が保全されることを、都会の父母が望んでいることが明らかにになった。